5. 採集品目録　　8／11,8／21（1988）

		採集地点						
		A	B	C	D	E	F	G
Odonata トンボ目								
Davidius nanus Selys	ダビドサナエ	+		+				
Lanthus fujiacus Fraser	ヒメクロサナエ						+	
Epiophlebia superstes Selys	ムカシトンボ		+			+		+
Mnais nawai Yamamoto	ナワカワトンボ			+				
Ephemeroptera カゲロウ目								
Ephemerella yosinoensis Gose	ヨシノマダラカゲロウ	+	+	+	+			
Ephemerella setigera Bajkova	クシゲマダラカゲロウ							+
Ephemerella bifurcata Allen	フタマタマダラカゲロウ					+		
Epeorus ikanonis Takahashi	ナミヒラタカゲロウ			+	+	+	+	+
Epeorus curvatulus Matsumura	ユミモンヒラタカゲロウ		+					
Rhithrogena satsuki Imanishi	サツキヒメヒラタカゲロウ		+					
Baetis sp	コカゲロウ属						+	+
Baetiella japonica Imanishi	フタバコカゲロウ					+		+
Isonichia japonica Ulmer	チラカゲロウ	+						
Ephemera japonica MacLachlan	フタスジモンカゲロウ	+		+	+	+	+	−
Plecoptera カワゲラ目								
Scopura longa Ueno	トワダカワゲラ						+	
Cryptoperla japonica Okamoto	ノギカワゲラ		+	+				
Yoraperla japonica(Ueno)	ミヤマノギカワゲラ							+
Paragnetina tinctipennis Mclachlan	オオクラカケカワゲラ					+		
Paragnetina suzukii Okamoto	スズキクラカケカワゲラ		+	+				
Megarcys ochracea Klapalek	オオアミメカワゲラ							+
Kamimuria tibialis Pictet	カミムラカワゲラ						+	+
Perla quadrata Klapalek	クロヒゲカワゲラ	+	+	+	+	+		
Oyamia gibba Klapalek	オオヤマカワゲラ				+			
Oyamia seminigra Klapalek	ヒメオオヤマカワゲラ	+						
Protonemura sp	ユビオナシカワゲラ属					+		
Chloroperlidae	ミドリカワゲラ科						+	+
Tricoptera トビケラ目								
Apsilochorema sutchanum Martynov	ツメナガナガレトビケラ	+						
Rhyacophila shikotsuensis Iwata	シコツナガレトビケラ	+		+			+	+
Rhyacophila clemens Tsuda	クレメンスナガレトビケラ		+					
Rhyacophila sp RA	ナガレトビケラ属							+
Stenopsyche griseipennis Mclachlan	ヒゲナガカワトビケラ				+	+		+
Arctopsyche sp AE	アミメシマトビケラ属		+				+	+
Hydropsyche orientalis Martynov	ウルマーシマトビケラ	+		+	+			
Hydropsyche sp HC	シマトビケラ属			+				
Tinodes higashiyamana Tsuda	ヒガシヤマクダトビケラ							+
Psilotreta kisoensis Iwata	フタスジキソトビケラ						+	+
Neoseverinia crassicornia Ulmer	オオカクツツトビケラ						+	
Goerodes japonicus Tsuda	コカクツツトビケラ		+					
Gumaga okinawaensis Tsuda	グマガトビケラ		+		+			
Glossosoma sp	ヤマトビケラ属	+						
Neophylax sp	アツバエグリトビケラ属			+				
Diptera 双翅目								
Atherix ibis Fabricius	ハマダラナガレアブ							+
Atherix basilica Nagatomi	ミヤマナガレアブ			+				
Prionocera sp PA	プリノセラ属(ガガンボ科)					+	+	
Megaloptera 広翅目								
Protohermes grandis Thunberg	ヘビトンボ	+	+	+	+			
Coleoptera 鞘翅目								
Ptilodatylidae sp	ナガハナノミ科						+	

宇奈月のサル

−今、サルと人間の共存を求めて−

若　林　一　成

サルは今から47年位前のわたしの子供時代はよき村人の動物性の蛋白源であった。近所の猟をする人にサルの腕一本や足一本をもらって食べさせてもらった記憶がある。

また，スキーをする人や大人の人は寒い季節には防寒用具として，よくサルの毛皮を尻あてにしたり，背なかに着たりしていた。先生もサルの皮を腰に下げていた。父もサルの皮を羽織っていた。

しかし，猟をする人は「サルを銃で撃つのが気持ちが悪い」ともらしていたことを想い出す。銃を向けると，サルは「うたないでくれ！」と手をあわせるというのである。これは本当か，どうか，未だ，科学的な発表を知らない。

とにかく，昔はサルの姿を見ることができなかった。サルは人間にこわくて近寄れなかったのか，あるいは，殺されて少なかったのか，山奥に食べ物が多くて住みよかったのか，どちらかであろう。

1.　近年のサル

ここ10年間近く，山へ植生調査に行く毎に何回となく，サルの群れにあっている。しかし，愛本橋から黒部川上流でしか，見たことがない。

残雪の早春，宇奈月の大原台スキー場の雪どけ跡で，三三五五，何かあさっている十数頭の群れを見た。

秋，音谷の水路橋近くの山の豆畑にいる数十頭の大きな群れを見た。秋の日中，内山地区にあるは宇奈月小学校の山手の木にサルが群れ，カキを盛んに食べていた。

晩秋の午後６時頃，愛本ダム右岸のウラジロガシ林の下，崖崩かい防止用金網につかまって，親子のサル３頭が鳴きながら，何かをあさっていた。ウラジロガシの実をひろって食べているのであろうか。

冬，宇奈月トンネルの入口，深谷で大人のサルに守られた子ザル数頭の群れを見た。

2.　サルとクワの木

冬，スキーに行くと，よくクワの枝の皮がサルにかじられ，枝が白くなっていた。クワの木の細い枝の皮をよく食べた跡を見つけた。大原台スキー場周辺でよく見かけた。峡谷鉄道の駐車場そば

〒938　宇奈月町栃屋

のクワの大木の枝，また，スキー場の林道わきのクワの大木の枝がかじむれ，白くなっていた。

山のクワの木は必ずといっていい位，皮が食べられていた。カイコの幼虫はクワの葉を食べて成虫になる。人間の子供はクワの実をよく食べる。サルはクワの皮を食べる。クワは動物にとって，共通の好物のような気がする。

先日，黒部川右岸の道路，宇奈月，音沢線を宇奈月の方から少し歩いた。その落石防御用の洞門の屋上にサルのふんが沢山あった。人間のふんより小さいが，同じ形をしたものである。その中は繊維性のものだけだった。その上の斜面にある，クワの枝がやはりかじられて，白くなっていた。急しゅんな黒部川右岸にもサルがいるのである。

3. サルの適応性

サル（哺乳類・霊長目・サル科）は熱帯性の動物というが，サルは生活のきびしい豪雪地帯の宇奈月にも生息することができる。旺盛な適応性を持っている。

その原因の一つは，

○群れを作り，子供を守り，また，互いに助け合うこと。例えば，雪上を移動する時は一列に並び，子ザルの前後を大きいサルが守るといったこと。

○見張り係，誘導係と役割分担をする社会生活の知恵を持っていること。

○雑食性でたいがいのものは食べること。

○人間以外の天敵が少ないこと。

4. 人間とサルの共存のために

ニホンザルは元来はブナやミズナラの天然林が分布中心地であるという。しかし，山の田畑では，村人たちは秋には作物を守るために次のことを行なっている。

○ガスボンベをつかって，定時的に銃声を響かせ，音でサルをおどしている。

○サルの毛皮を畑に立てて，悪いことへの「みせしめ」としている。

○山小屋に犬をかって，犬のなき声でいやがらせている。

これらのことも余り功を奏さないときは，転作しかしようがないのである。サルの食べないネギなどの作物を植えるのである。でも，サルの嫌いな作物は極，限られている。

サルとの共存の手立ては，自然は人間だけのものでなく，生きとし生けるすべての動物と共有するものであるという考え方から出発するより他にないと思う。その上で，人間は餌づけ，住み分け等の弱者「サル」の保護対策を考えるべきである。それが昔からサルを利用して来た人間の償いであると共に，今後の豊かな自然界の維持につながる。

米山周辺の野外研修会

「新潟県東頸城郡の郷土資料館及び米山などを訪れて」

（平成元年7月29日～30日）

若　林　一　成

1. 高速北陸自動車道　境Ｐ．Ａ

8時30分，本多会長初め，6名がそろう。今回の研修旅行の計画をたてる。境Ｐ．Ａには松尾芭蕉の句碑「一つの家に遊女も寝たり萩と月」や，「まが玉の里」にふさわしく当地特産のヒスイで作られた「まが玉」のモニューマン，そして，ヤマハギ，ハマナス，黒松，ヤブツバキ等，当地周辺に自生している樹木がふんだんに植えられて，きれいな庭園をなしている地元の特長と個性があって，好感がもてる。

2. 名立谷浜　Ｐ．Ａ

午前9時54分に，ここにも立ち寄る。また，ここにも芭蕉の句碑「文月や六月も常の夜に似たり」が，直立するドイツトウヒに囲まれ，夏のあつさを一層，あつくしている。

3. 柏崎駅，10時37分，ここで参加するもう1名を待ち，落ち合う。

4. 午前11時26分，7名が自家用車3台に分乗し，国道235号線を走る。国道といっても富山県の国道と比べると県道のような狭くて，おそまつな山道であり，時たま，農作業帰りの自転車に出会う。でも，感心したことは沿道に「青空市場」，「無人市場」が目についたことである。そこに，山里ならではの，のどかさと野生味と新鮮さを感じた。

5. 松代，郷土資料館

松代町11時51分，松代郷土資料館は，国道から，なお，山道の奥に入った，標高250 mの山中にあった。民家をそのまま，その場で町営の資料館にしたものである。

木造3階建てのトタンぶきで，その軒下には家屋を囲むように池がある。敷地が狭いが，高い建て物である。軒下の池から富山県の五箇山の家屋を思い出した。トタン屋根から自然に落ちる雪を融かすためであろうか，池に水がいっぱいあった。

浦山小学校　自宅　〒938　宇奈月町栃屋